

モーリタニア月例報告
(2019年1月)

2019年2月
在モーリタニア日本国大使館

主な出来事

【内政】

- 1月9日 「憎悪と不安定に対する国民行進」後のアブデル・アジズ大統領の演説
1月29日 2019年大統領選挙：ガスワニ国防大臣の立候補決定

【外政】

- 1月13日 アブデル・アジズ大統領のUAE訪問
1月16日 イスマイル外相のアラブ経済サミット閣僚級準備会合出席
1月16日 アブデル・アジズ大統領のサウジアラビア訪問
1月19-20日 アブデル・アジズ大統領の第4回アラブ経済サミット参加
1月20-21日 イスマイル外相のEU・AU閣僚会合出席

【経済】

- 1月17日 モーリタニア・セネガル国境沖合の海底ガス田開発：第一フェーズにおける英BP社の単独契約
1月22-23日 モーリタニア・セネガル沖合の海底ガス田開発：GTA開発に係る協力合意関連法案の承認
1月29日 モーリタニア北部でのウラニウム開発
1月30日 モーリタニア沖の未開発鉱区域における技術調査に係るシェル社との合意

【内政】

- 「憎悪と不安定に対する国民行進」後のアブデル・アジズ大統領の演説
(1月10日付当地政府系紙「オリゾン」他)
 - 1月9日朝、アブデル・アジズ大統領は、ヌアクショットにおいて、憎悪の言説と分裂の扇動に反対し立ち上がり、国民団結を維持するために、平和と平穏な環境での共存及び寛容という価値観を守らなければならないと、全モーリタニア国民に呼びかけた。
 - アブデル・アジズ大統領は、「憎悪と不安定に反対する国民行進」後に行

った演説において、同行進に数多くの参加者が参加したことは、少数の（国家）分裂を企む者や過激主義者に対する、モーリタニア国民の痛烈な反応であると述べた。また、この多数の市民の参加は、国民結束に対する心からの愛着、国家や輝かしい歴史への責任を負うという気持ちを示すと同時に、モーリタニア国民間の不和をもたらす者への確固たる反対を示していると述べた。

3 同大統領は、10年前に、首都を含む全ての都市がテロの脅威にさらされていたことに言及し、国民、政府、軍の意志により、国家が安定したと述べた。

4 同大統領は、社会的分裂や格差を軽減する唯一の方法は教育や学習であるとし、その実現に向けた社会的努力の重要性を強調した。

●2019年大統領選挙：ガズワニ国防大臣の立候補決定（1月29日付当地独立系ニュースウェブサイト「サハラ・メディア」）

1 1月29日、マハム政府報道官は、自身のツイッター・アカウントにて、与党が、本年の大統領選挙における立候補者としてガズワニ国防大臣を選出した旨コメントを投稿した。同発表の前には、ガズワニ氏に対する支持について、アブデル・アジズ大統領と政界要人との間で度重なる協議が行われた。

2 マハム大臣は、投稿したコメントの中で、ガズワニ大統領が次期大統領選挙の立候補者として選出されたことは、先駆的な国家プロジェクト、すなわちアブデル・アジズ大統領が築き上げた治安、民主主義及び開発分野におけるプロジェクトに継続性を与える旨述べた。

3 ガズワニ国防大臣は、昨年9月の国政選挙及び地方選挙後に行われた組閣時に国防大臣に就任し、右に伴い、昨年末に軍を退役した。

【外政】

●アブデル・アジズ大統領のUAE訪問（1月14日付「オリゾン」他）

1 首脳会談

（1）13日、アブデル・アジズ大統領は、アブダビ国際空港に到着し、ハンマーディ（H. E. M. Hussein Al HAMADI）UAE教育大臣を中心とするUAEハイレベル代表团に出迎えられた。

（2）アブデル・アジズ大統領は、空港貴賓室での小休憩後に空港を発ち、ムハンマド・アブダビ皇太子兼連邦軍副司令官（以下、ムハンマド・アブダビ皇太子）と会談し、モーリタニア・UAE二国間関係強化のための方途及び共通関心事項につき協議した。

（3）アブデル・アジズ大統領及びムハンマド・アブダビ皇太子の出席の下、UAEが、モーリタニアにおけるマイクロプロジェクト促進及びビジネス環境強化のために2,500万米ドルをモーリタニアの開発信託基金（CDD）に

拠出することに合意した。同合意に、ヌエイイス（Mr. Houssin Jassem NOUEISS）ハリーフア基金理事長（UAE側）及びディアガナ（Mr. Mohamedou Youssouf DIAGANA）開発信託基金理事長（モーリタニア側）が署名を行った。

2 アブデル・アジズ大統領のアブダビ持続可能週間への出席

（1）14日、アブデル・アジズ大統領は、同日に開催初日を迎えたアブダビ持続可能週間（ADSW）に出席した。同フォーラムは、ムハンマド副大統領兼首相兼ドバイ首長及びムハンマド・アブダビ皇太子の指揮の下「各セクターの融和：持続可能な開発のリズム加速化」をテーマに開催された。

（2）同フォーラムにおいて、第11回持続性のためのシェイク・ザード賞が発表され、アブデル・アジズ大統領が贈呈者を務めた。同賞は、5つのカテゴリーにおいて、インパクトや革新性、リーダーシップ、長期的ビジョンを考慮して評価され、選出される。

●イスマイル外相のアラブ経済サミット閣僚級準備会合出席（1月17日付 当地政府系紙「シャアブ」他）

16日、イスマイル外相がアラブ経済サミット（18日から20日にかけて開催）の閣僚級準備会合に出席のためベイルートに向けてヌアクショットを出発した。

●アブデル・アジズ大統領のサウジアラビア訪問（1月17日付「サハラ・メディア」）

15日にアブデル・アジズ大統領夫人の実母が亡くなった訃報を受けて、16日、UAE訪問中のアブデル・アジズ大統領が、急遽サウジアラビアを訪問し、マディーナの預言者モスクにて追悼の礼拝を行った。

●アブデル・アジズ大統領の第4回アラブ経済サミット参加（1月21日付「オリゾン」他）

1 大統領の演説

20日、アブデル・アジズ大統領は、ベイルートで開催された第4回社会・経済開発のためのアラブ・サミット（アラブ経済サミット）に参加し、スピーチを行った。同大統領はスピーチにおいて、持続可能な開発を創出するアラブ世界の経済統合の実現には人材開発への投資が必要である旨言及するとともに、モーリタニアの経済都市であるヌアディブ経済特区での次回アラブ経済サミットの開催決定に謝意を表した。

2 首脳会談

19日、アブデル・アジズ大統領は、ベイルート・ラフィク・ハリリ国際空港の貴賓室において、アウン（H. E. M. Michel AOUN）レバノン大統領と会談し、両国の共通関心事項及び二国間関係強化の方途について協議した。

●イスマイル外相のEU・AU閣僚会合出席（1月22日付「シャアブ」）
イスマイル外相が、20日及び21日にブリュッセルで開催されたEU・AU閣僚会合に出席した。

【経済】

●モーリタニア・セネガル国境沖合の海底ガス田開発：第一フェーズにおける英BP社の単独契約（17日付当地独立系ニュースウェブサイト「クリデム」）、
1 英BP Gas Marketing社の単独取引契約
英BP社傘下のBP・Gas Marketing社は、モーリタニア・セネガル国境沖合の海底ガス田（GTA）開発の第一フェーズにおける単独取引契約者となった。同社は、米KOSMOS社及びBP社との自由競争市場の中から選出された。

2 GTA開発の今後の見通し

（1）第一フェーズでは、海底採ガス井から輸送した（炭化水素）ガスを浮体式生産貯蔵積出設備（FPSO）において天然液化ガスに変換する。その後、モーリタニア及びセネガル国境沖合周辺に位置するハブ・ターミナル基地の浮体式液化天然ガス生産施設（FLNG）に移送される。

（2）第一フェーズでは、FLNGにおいて、年間250万トンの液化天然ガスの生産が期待されている。また、それ以降のフェーズにおいては、年間約1,000万トンの液化天然ガスが生産される見通しである。BP社によると、GTAガス田の埋蔵量は、約15兆立方フィート（約4,247億5千万立方メートル）と推定されている。

（3）第一フェーズの事業開始は、2019年の第1四半期であり、最初のガスの生産は2022年第1四半期中の見込みである。GTA開発計画は、オペレーターであるBP社及びKOSMOS社、モーリタニア炭化水素・炭鉱資産会社（SMHPM）、セネガル石油公社（PETROSEN）からなるジョイントベンチャー事業であり、モーリタニアにおける資本は、BP社（62%）及びKOSMOS社（28%）、SMHPM（10%）に分配される。モーリタニア及びセネガルの共同鉱区においては、BP社（61%）、KOSMOS社（29%）、SMHPM（5%）、PETROSEN（5%）にそれぞれ分配される。

●モーリタニア・セネガル沖合の海底ガス田開発：G T A 開発に係る協力合意関連法案の承認（1月23日付及び24日付「オリゾン」）

1月22日及び23日に招集された国民議会において、モーリタニア・セネガル沖合の海底ガス田（G T A）開発に係る協力合意を批准する3法案が承認された。なお、同協力合意は、昨年2月9日及び同年12月21日に、ヌアクシヨットにおいて、モーリタニア及びセネガル間で合意された政府間協力合意であり、今般承認された法案は、受託契約者の契約及び権利並びにガス田埋蔵量の共通規定等産油活動を規制する一般原則を定義した法案、下請業者に対する課税項目等の二国間協力合意への追加法及び国債整理に係る法律である。

●モーリタニア北部でのウラニウム開発（1月29日付「クリデム」）

1 1月29日、A u r a E n e r g y 社は、同社のT i r i s プロジェクト（注：モーリタニア北部ティリス・ゼムール州におけるウラニウム採掘計画）において、今後採掘されるウラニウムの一部をC u r z o n U r a n i u m T r a d i n g 社に売却する売買契約合意に至った。

2 同契約では、生産開始から7年間で、総重量80万ポンド（約40万キロ）の酸化ウラン（八酸化三ウラン）が売買される。さらに、180万ポンド（約90万キロ）の酸化ウランがオプションとして追加売買される。合意販売価格は、1ポンドあたり44米ドル（1キロあたり約88米ドル）以上であり、これは現在の市場価格（1ポンドあたり29米ドル）及び同プロジェクトの総採掘費を越えることとなる。

3 A u r a E n e r g y 社は、同プロジェクトの最終フィージビリティ調査は完了間近であり、建設の初期工事は2019年に開始し、生産は2020年までに開始される予定である。

4 A u r a E n e r g y 社のホームページによると、同プロジェクトは、ウラニウム鉱床6サイトを対象にしており、年間採掘量は、100万ポンド（50万キロ）の見込み。同計画を継続するための採掘権は、近年、モーリタニア政府によって与えられた。同採掘に係る税は15%で合意している。また、同社は、インシリ州にあるT a s i a s t 金鉱床の南（3サイト、600平方キロに及ぶ区画）で金採掘事業を計画しており、2016年に、モーリタニア政府に対し、同採掘権を申請している。同採掘許可に関しては、現在も協議中。

●モーリタニア沖の未開発鉱区域における技術調査に係るシェル社との合意
（1月31日付当地政府系ニュースウェブサイト「モーリタニア通信（AMI）」）
1月30日、アブデル・ヴェッタ石油・エネルギー・鉱業大臣とゲルリッツ（Mr. Marc GERRITS）シェル社調査部執行副部長が、モーリタニア沖の未開発鉱区域における技術調査の許可に係る合意を締結した。

（了）